



ものづくり技術

09

平成 26 年度
補助事業

日本の伝統的木工技術「組子」を用いた製品の製作販売促進事業

課題 *Issue*

衰退の危機にある 日本の伝統技術

近年、一般新築住宅での和室の減少に伴い、日本古来の木製建具需要が低迷し、「組子技術」を施した製品を提供する機会も減っています。一方、自然素材を使った木製建具が見直され、寺社、高級料亭などでは質の高い木製建具や観賞用建具のニーズが依然として健在です。伝統ある日本の建具技術の中でも特に緻密さが必要な組子ですが、新たな施工技術を開発し、県内では他社にない技術も保有しています。しかしながら、最高難度の組子技術を用いた製品は、長い製作時間と過程において高度な形状算出法が必要であり、非常に手間がかかり、結果的に高価格で買い求めにくいものとなっていました。

実施内容 *Measures*

機械化で手間を省き コストダウンを図る

効率的な生産体制の確立と達成に向け、全自動NCラジアルソーを導入して試運転を行い、面取り組子ならびに曲げ木組子 240 か所（風炉先屏風の一部）を試作しました。これまで製品製作では「加工を記す工程」と面に被さる部分の「先端ツノ型切取加工」、さらに「曲木組子のV溝加工」に手作業が多いため、材料や時間のロスが多くなっています。これらの工程で導入機のNC計算機能およびテーブル自動位置決め装置の活用や、高精度な治具と特殊Vカッターの付加などによって手作業を機械化し、技術的課題とコストダウンの実現性について検証を行いました。

成果 *Results*

加工時間の短縮から 新ブランドを打ち立てる

全自動NCラジアルソーの導入で機械化が進んだことにより生じた作業余剰時間を活用し、オリジナルブランド「ふくしま組子 木良(KIRA)」を生み出しました。親子2代の建具職人それぞれが持つ技と感性の全てを吹き込んだこのブランドの製品では、木材自然色を組み合わせ「赤・黄・青」の三原色に近い色合いを演出。ナチュラルな組子や組子材の全てを六面体に加工し、立体的に見せる最高難度の技術である「面取り組子」などの匠の技が凝縮され、他に類を見ない美しいものとなっています。難度の高い技術や品質を保ちながらも、現代の暮らしに取り入れやすい価格になりました。



当社の事業内容

50年にわたって建具の技を培ってきた代表と、組子を現代から未来へとつなぐべく革新的創造性を伝統とシンクロさせる2代目。親子2代で一般住宅の襖や障子、木製家具などを手掛けるほか、公民館や学校等の公共工事にも積極的に受注しています。代表は、平成8年に福島県技能者表彰（木製建具・製造工）を受賞、平成21年には一般社団法人全国技能士会連合会マイスターにも認定されています。同年には、全国の建具職人が最高の技を競う第43回全国建具展示会において、内閣総理大臣賞を受賞しました。また、親子2代で「ものづくりマイスター」として、小学校での体験学習等で実技指導を行い、ものづくりの魅力発信にも積極的に取り組んでいます。

今後の展望 *Future outlook*

日本の組子のすばらしさを世界中に広めたい

日本伝統の技法とはいえ組子製品には、需要の掘り起こしの余地が日本に残されていると思われます。小物組子製品では全ての世代層が想定でき、大型の組子製品は日本家屋に住んでいる金銭的にゆとりのある50代～70代の層（日本の個人金融資産の6割以上を保有）および40代前半（住宅建設世帯主の平均年齢）を想定しています。また、日本家屋に限定されない商品開発を行って、国外に組子のすばらしさを知らしめていけば、日本の伝統産業が国内にとどまらず認知拡大および継承につながります。当社の経営基盤の強化という面においても、既存事業（木製建具・家具製造販売）を維持しながら組子製品の市場を拡大させることは、売上・利益率の増加が図られて収益力の向上に結び付き、経営基盤をより強固なものにできると考えています。



初代 金澤良吉

会社概要 *Company introduction*

カナザワ建具店

〒963-5201 福島県東白川郡矢祭町中石井字館谷 26 番地1
TEL. 0247-46-3681 FAX. 0247-46-3701

●代表者 金澤良吉
●従業員 2名
●URL <http://www9.plala.or.jp/doorshop/>

●設立 昭和 54 年 7 月



内閣総理大臣賞受賞

平成
25
年度

平成
26
年度

平成
27
年度

平成
28
年度

平成
29
年度

平成
30
年度